

今後の土地活用は？

小松一般廃棄物最終処分場

問

小松一般廃棄物最終処分場は、総埋立容量に達したため平成24年6月に埋め立てを終了しており、今後処分場廃止手続きに入るものと認識している。

平成24年3月定例会において、一般廃棄物受け入れ停止後、法令で定められている水質の監視を2年間行い、その間に住民の意見をじっくりと踏まえながら土地の利用計画を検討したい、との委員長報告があったが、9年余り経過した現在、水質検査の実施状況と土地活用の検討はどのようにになっているのか。



今後廃止する小松一般廃棄物最終処分場

答

処分場を廃止するには、2年以上、放流水の水質が法令に定められた排水基準に適合している必要があるため、定期的な検査を継続し、現在まで排水基準に適合していることを確認している。

土地の活用については、ワーキンググループで検討したが、最終的な結論には至っていない。今後は、地権者との敷地境界確認を完了させ、廃止手続きを優先して進めた上で、地域住民や関係者の意向も参考にしながら検討していきたい。

問

新型コロナウイルス感染症対策により生活の自粛を余儀なくされ、経済的・文化的な損害は戦後最大と言われている。緊急事態宣言は解除されたが、新型コロナウイルス感染症の第2波は、人々の油断から始まると言われ、当分の間、気を緩めることはできず、今のうちに第2波に備えた準備が必要と考える。

市内の小・中学校では、長期間の臨時休業期間を終えて授業が再開されたところであるが、21日間の臨時休業により、不足している標準授業時数をどのように確保しようと考えているのか。また、詰め込み教育とならないための対策をどのように考えているのか。

次に、臨時休業中の長期間にわたる閉じ籠もり生活が、児童・生徒の心や体に悪影響を与えていると思われるが、心のケアをどのように考えているのか。

次に、児童・生徒が新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症を予防するためには、感染症を正しく理解し、

次に、夏休みの時期に授業を実施するにはエアコンの使用が必須であるが、エアコンでは室内のウイルス除去はできない。除去対策を含め、エアコンの使用方法をどのように考えているのか。

正しく恐れるための分かりやすい予防教育が必要である。感染症に対する三種の神器といえば、マスク・ハンカチ・せっけんだが、マスクの着用は、感染予防に特に有効な手段である。今後、暑い季節を迎えることから、マスク着用時の熱中症対策やマスクの着脱について、柔軟性を持った指導が必要であるが、マスクを忘れてきた児童・生徒に対する指導と併せ、どのような対応を考えているのか。また、非接触型体温計の導入時期をどのように考えているのか。

次に、学校給食時においても、これまでと違い、3密とならないよう注意しつつ、食事時間を短縮するなどの対応が必要となると思うが、どのような対応を考えているのか。最後に、3密を避けつつ登下校するために、どのような対応を考えているのか。

井上 浩 二議員



(一般質問)

1 小・中学校における新型コロナウイルス感染症対策について

感染症対策の徹底を！



マスク着用で間隔を開けながら登校